

# 新年のごあいさつ

全農協労連中央執行委員長 砂山 太一

明けましておめでとうございます。

いま、この国の「平和主義」「民主主義」「基本的人権の尊重」が危機的な状況となっています。それは、安倍政権が「戦後レジームからの脱却」を声高に叫び、日本国憲法の破壊へと突き進んでいるからです。

私たちが働く農協・連合会や共済組合は、戦後の日本社会の仕組みの中でつくられました。日本国憲法が作られる前に、民主化政策の下、地主制度が解体され、新しく農地法が作られ、「家族農業」を中心に国民の食料を生産する体制が作られました。農協・連合会や共済組合は、それを支えるためにつくられた制度です。それは、貧しかった戦前の農村、再び戦争をしないためにも、農村・国民の貧困を解決する必要があったからです。言い換えれば、私たちの職場である農協・連合会、共済組合などは「平和主義」を守ること、「戦争をしない国」にしていくためにつくられた組織と考えても間違いのないことです。

昨年、5月3日・憲法記念日に安倍首相は「2020年を新しい憲法を制定する年にする」と発言し、今年中に「9条に自衛隊を明記した」新しい憲法の発議をめざしています。北朝鮮の危険な動き、改憲を支持する声も広がっています。しかし、その解決は、武器による解決ではなく、話し合いによる解決をめざすことが大切で、9条の精神を生かすことが大切です。

いま、政府主導の農業・農協改革の下、私たちは、将来に展望が見出しにくい状況におかれています。それを打開するためにも、平和、憲法を守るたたかいに立ち上がりましょう。すべての組合員の奮闘を呼びかけ、新年のあいさつとさせていただきます。今年も共に頑張りましょう。



2018年1月